

岩手県立大学盛岡短期大学部 令和6年度の主要な取組実績

1 全学的な取組

分野	計画の概要	実績の概要
教育分野	<p>教学 I R センターにおけるデータの収集及び迅速な情報提供の仕組みの構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教学 I R センターにおいて、これまで紙媒体や別システムで実施してきた高等教育セミナー等のアンケート、文部科学省の全国学生調査及び就業力の評価を教学 I R センターシステムで実施し、データの収集を行った。 ・ 教育課題検討部会において、学部等と教学 I R センターの協働について検討し、教学 I R センターシステムを通じて所属学部等へアセスメント等に必要なデータを迅速に提供できるよう、関係する委員長等がアクセスできる仕組みを構築した。
教育分野	<p>全国公立大学学生大会 (LINKtopos2024) の岩手開催に向けた準備及び大会運営</p>	<p>全国公立大学学生大会 (LINKtopos 2024 in IWATE) の主幹校として、運営学生及び企画チーム専門委員の教員が中心となり、学生支援本部との協働により、大会のプログラム構成、ワークショップの事前調査、各種手配等を行い、全国から 86 名の参加を受け、大会を運営した。</p>
教育分野	<p>L G B T Q + ガイドラインの策定及び学内の意識醸成の取組の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「岩手県立大学における多様な性のあり方を尊重するためのガイドライン」を制定した。 ・ ガイドライン制定に併せ、全教職員・学生を対象とした全学セミナーを開催した。
教育分野	<p>キャリア相談受付のシステム化、内定報告書等のシステム化の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からのキャリア相談受付のシステム化を実施した。その結果、模擬面接の件数が増加するなど、学生の利便性が向上した。 ・ 内定報告書等のシステム化について検討を行い、教学 I R システムを活用する方向とした。
研究及び地域・国際貢献分野	<p>地域 D X の取組に係る意識醸成やデータサイエンスのスキル修得のためのリカレント教育プログラムの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体向け講座として、「地域 D X 推進セミナー」、「グループチャット等の使い方と活用方法」、「データ活用スキル形成研修」等を開催した。 ・ 民間向け講座として「高度技術者養成講習会」等を開催した。
研究及び地域・国際貢献分野	<p>滝沢市 I P U イノベーションセンター・パーク入居・立地企業等が参画する企業学群の本格推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業学群講演会の開催を通じて企業学群構想の理念等について関係者間の共有を図ったほか、各学部長との名刺交換会の開催などを通じて滝沢市 I P U イノベーションセンター・パーク入居・立地企業等との相互理解の深化を図った。 ・ インターンシップ型連携授業の実施等により、滝沢市 I P U イノベーションセンター・パーク入居・立地企業等と連携した人材育成の取組を行った。

法人経営分野	授業料の口座振替のウェブ受付サービスの導入	令和7年度運用開始に向け、授業料口座振替依頼ウェブ受付サービスを導入した。
法人経営分野	広報活動の手引き及びデザインガイドラインの作成、ウェブアクセシビリティ方針に基づいた大学公式ウェブサイトのリニューアルの準備、大学公式SNSにおける情報発信のあり方の整備	<ul style="list-style-type: none"> 全学の統一的な広報活動に向け設置した「広報検討ワーキンググループ」等による検討を踏まえ、改訂版広報マニュアル及びデザインマニュアルを作成した。 広報委員会、ウェブサイトリニューアルワーキンググループ、事務局担当職員等と検討を行い、リニューアルの調達仕様書を作成した。 大学公式SNSの整理を行い、改訂版広報マニュアルに情報発信のあり方について整備した。
法人経営分野	ハラスメントに係る外部相談窓口の設置	民間機関への委託による学外の第三者相談窓口を設置し、学生及び教職員からの相談に対応できる体制を整備した。

[その他の取組]

計画の概要	実績の概要
<p>単位の実質化を図る取組について検討する。</p> <p>※ 令和4年度受審認証評価における改善課題</p>	<p>1 CAP制度導入について</p> <p>深い学びを促す単位の实質化について、CAP制度の考えを踏まえながら検討を行った。CAP制度について、他学部の導入状況調査、FDセミナー（CAP制度に係る事項）を活用したCAP制度への学部内理解促進、本学部学生の近年の履修状況調査等を行い、令和8年度の導入に向けたタイムスケジュールを組み、教務委員会で検討資料並びにたたき台を作成し各学科専攻にて継続的検討を行っている。</p> <p>2 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 学修アセスメントについて、令和5年度のアセスメント結果報告書として初めてまとめ、国際文化学科においては令和6年度カリキュラム・ポリシーの改定につなげた。アセスメント・ポリシーについて、適切・効果的なものとなるよう適宜見直しを行い、国際文化学科では令和6年度からの新カリキュラム実施につなげた。 PROGテストを、これまでと同様1年次と2年次に各1回受験し、成長分析を行った。 TOEICテストを、前年度に引き続き国際文化学科1年次生が1月に受験し、2年次クラス分けに活用することとした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学修成果の可視化について、FDセミナーでの情報共有とともに教学IRセンターとの情報共有、連携方法を検討した。 ・ 教育環境の改善について、資料室、製図室の自習利用への開放などを継続して行った。 ・ 学部・全学レベルの研究・教育課題について、教育課題検討部会への議題提案を行った。 ・ 8月に学部FDセミナー「学修成果の検証とその可視化：芝浦工業大学の事例から」を実施した。学部等教員と他学部参加者を含めたブレイクアウトセッションによるグループワークとディスカッションを行い、DPの目標達成の手法を検証し、学部内でのCAP制に対する理解を深めた。併せて、FDセミナー参加者からのアンケートを取りまとめた。
<p>志願者確保や入学定員充足のための取組を実施する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 高大連携事業関係 <p>入試相談会 11 件（新聞社・業者主催 4 件、夏・秋オープンキャンパス、県北沿岸地区入試相談会 5 件（オンライン）、高校教員説明会、サマーセミナー、ウィンターセッション、授業見学 2 件、模擬授業 1 件などの高大連携事業に参加し、志願者確保につなげる活動を実施した（出張講義は依頼が無かったため実施せず）。</p> 2 志願者動向分析関係 <p>令和 6 年度の盛岡短大部独自の高校訪問は、8 月から 9 月 13 日にかけて、計 28 校に対して実施した。各学科専攻の特徴のPR、令和 7 年度入学者選抜の概要及び令和 8 年度入学者選抜の変更点を説明するとともに、訪問校出身本学在学生の状況について情報提供を行った。また、各高校の志願状況について聞き取りを行った。また、「総合的な探究の時間」の実施状況や、英語の検定試験の実施状況についても聞き取りを行った。その他、意見交換を行った。</p> 3 学校推薦型選抜の定員見直し <p>生活科学科両専攻において、安定的な志願者数を確保するために、令和 8 年度入学者選抜より、学校推薦型選抜の募集人員を変更することとした。両専攻とも、A 区分の募集人員 3 名は変更せず、B 区分の募集人員を 5 名から 7 名へと変更する。それに伴い、一般選抜の募集人員は両専攻とも 17 名から 15 名とし、総定員は現状から変更しないこととした。</p>